

夢洲調査報告 20190726（昆虫 1 回目）

公益社団法人 大阪自然環境保全協会 生物多様性委員会

10 時 20 分～14 時 20 分 天気：晴れ 最高気温：32.6 度 最高湿度：64%

ルート：夢洲 1 区、および 1 区と 3 区の間の尾根道、2 区干潟の南側



梅雨が明け、日陰のない裸地、草地では、発表された気温よりもっと高かったかと思われる。

そのためか前回 7 月 9 日の植物調査のときに比べて、視認できる昆虫量が非常に少なかった。

今回は、午後から 1 区環境事業組合エリアに入れていただく、ということで、前回希少な水草の見つかった池の周囲の生き物調査を重点的に考え、午前中は体力の消耗を極力抑えるため、超低速の車上から夢洲全体を確認して回る。3 区カジノ予定地のほうはどんどん埋め立てが進み、半年前には裸地だった場所が緑の草原になって、チュウサギの群れが寛いでいた。土埃を抑えるための散水車ありがたい。

観察記録（確認できたもの、気象温度 32℃、外気温度 32～35℃）

・第 1 区、第 3 区の境界道路（低速車上から確認）

アオスジアゲハ、キアゲハ、ナミアゲハ、クロスジギンヤンマ、チョウトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ



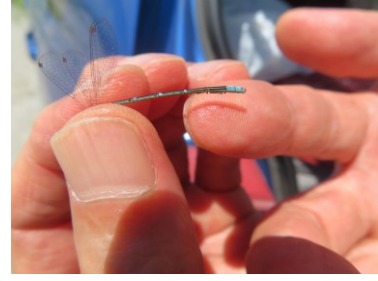
（上左は散水車。上右は、カジノ計画地。ここまで埋め立ては進んでいる。）

- ・第1区浄化設備そばの池周辺（PH7.99、水辺水温 34.9℃）（写真撮影時の PH は 8.08）

イトトンボ sp.、ギンヤンマ

※浄化設備の PH 値はまだアルカリがきつい。

小さな池にはイトトンボがたくさんいたが、池はお風呂並みの水温。



- ・H護岸中央の草地（昼食休憩場所）

ムスジイトトンボ ほか

※夢洲は木陰がほとんどない。

この場所だけ、樹木が多少は育っていて、
草を分け入ると木陰で休むことができた。



午後は、1時より、環境事業組合の係員付き添いのもと、夢洲1区中央部G護岸脇の雨水による池の周りを調査した。もっとも南西側の幅 15m、長さ 70m 程度の池の水辺水温は 34.8℃。前回採取した水草がツツイトモ・リュウノヒゲモであり、リュウノヒゲモは標本化できなかったの、採取再挑戦。（追記：リュウノヒゲモは採取されなかった）

※第1区中央部G護岸脇の雨水による池3つ

数m～十数mしか離れていない横ならびにある3つの池、場所は非常に近いにもかかわらずざっと観ただけでも生息昆虫の種類、水草の繁茂の違いが認められた。理由は不明。



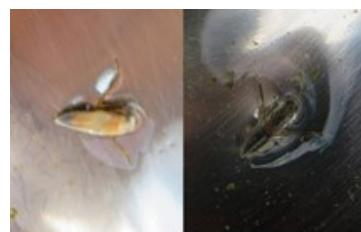
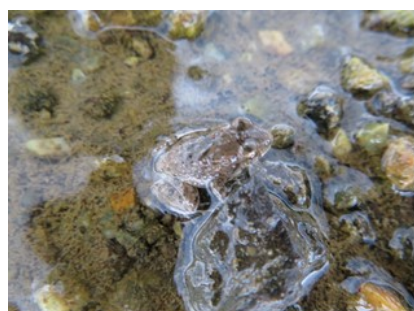
【見られた昆虫】

アオモンイトトンボ、コオニヤンマ、ギンヤンマ、クロスジギンヤンマ（上左）、

シオカラトンボ、コフキトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、ショウリョウバッタ、
トノサマバッタ幼虫（上中）、ハラヒシバッタ、アカハネオンブバッタ、オンブバッタ、イボバッタ、
オオカマキリ幼生、チビゲンゴロウ、ナガメ、フタモンアシナガバチ、マツモムシ2種

【昆虫以外】

ナガコガネグモ、ミジンコ sp.、ヌマガエル、アライグマ（足跡と糞）、ヌートリア（糞）



なお、鳥類は、カイツブリ、カワウ、カルガモ、チュウサギ、アオサギ、ミサゴ、ムクドリ（若鳥群）、
ツバメ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、チョウゲンボウ、チュウヒ、セッカ、チドリ sp.、が確
認できた。



調査・写真撮影：岡和田 齊
大川 英登
磯上 慶子
加賀 まゆみ